

(別紙6)

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年5月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0773300249		
法人名	有限会社 かみまの		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 田園		
所在地	〒979-2461 福島県南相馬市鹿島区山下字北山下2 1番地 (電話) 0244-47-2101		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮 1 1 1		
訪問調査日	平成19年4月23日	評価確定日	平成19年5月30日

## 【情報提供票より】(平成19年3月30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算15.75人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 平屋造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成19年3月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	8名	要介護4	5名			
要介護5	1名	要支援2				
年齢	平均	85.8歳	最低	70歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 小野田病院	田村内科医院	相良歯科医院
---------	------------	--------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、法人名「かみまの」が示すとおり、地元出身の運営者が旧上真野村の自社保有地(田園地帯)に設置した施設である。「異體同心(イタイドウシン)」の理念を掲げ、地域密着・利用者本位の方針を運営者(管理者)自らが永年の経験を活かして実践し、開所以来満2年を迎えて、着実にその実績を積み重ね、利用者と家族・地域住民の信頼を得ている。木造平屋建ての温か味のある施設は、馴染みの調度品や入居者手作りの作品が飾られ、利用者の穏やかな暮らしの場として溶け込んでいる。今後は更に理念の具体化に向かってスキルアップが期待出来る施設である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)  運営者(管理者)は、自己評価・外部評価の意義を十分に理解しており、改善については職員とともに真剣に取り組む姿勢が感じられた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)  2ヶ月に1回の運営推進会議は毎回有意義な話し合いはなされているが、議事録が残されていない。今後は資料(議案書)と議事録(話し合いの決定事項)を作成し、次回以降開催時の資料として、ホームの運営に活かしていただきたい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  ホーム開設以来毎月「田園」の広報誌(写真をたくさん取り入れ家族に判りやすく出来ている)を作成し、全家族へ届けている。家族の施設訪問も頻繁に行われており、その都度意見の交換と相談ごとの解決を図っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  地域住民との連携は密に出来ており、施設内庭園に設置された土囊づくりの特設ステージを利用した夏祭り歌謡ショーなどには、利用者家族とともに大勢の地域の人々に参加して頂いており、花火の打ち上げも行なっている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営者(管理者)が創案した「異體同心」の格言を法人の理念として掲げ、地域密着・利用者本位「身体は別々でも心は一つ」の独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングでは「異體同心」の理念を復唱し、理念の具体化に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者(管理者)は地元出身であり、自治会や老人会とは関係を密にしている。近隣の保育所や小学校との交流もあり、ホームの「夏祭り」や各種行事には大勢の地元住民が参加している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者(管理者)は自己評価及び外部評価の意義を十分に理解し、職員に対しても意義の共有を図り、日々の改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、利用者の日常生活の現況や評価への取り組みなどについて報告や意見の交換をしているが、記録は残されていない。</p>		<p>運営推進会議ではその都度ケア向上のための議題を提案し、又は提案していただき、問題提起と結果報告を必ず議事録として残すことが大切であり、次回に繋がる会議にしていきたい。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月親しみやすく読みやすいカラーの広報誌を発行し、家族への連絡も入居者の個人別に一筆啓上の連絡を入れている。職員の異動は極力抑制し家族にも報告している。</p>		<p>広報誌には、四季の移り変わり、催し物の様子、個人別の通信欄もあり、工夫が感じられた、今後も更に内容の充実を図っていただきたい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱が設置されているが、現在まで家族からの不満や苦情は少ない。</p>		<p>面と向かっての家族からの苦情は言いにくいものです。日常的な家族との対話からも意見の反映が図られるよう、更なる取り組みを期待します。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は極力最小限に抑える努力をしている(18年度3名)。異動や離職の場合は事前に新規職員を入職させ、引継ぎ期間を設けている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修会には極力参加するようにしている。</p>		<p>認知症実践者研修会を始め、各種研修会の情報を収集し、一人でも多くの職員に研修会に参加するよう努めて頂きたい。尚、研修後はホーム内で報告会を開き、研修の成果と感想文などを残しておくことが望まれます。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>相双地区のグループホーム連絡協議会とは常に連絡をとり交流を図っている。</p>		<p>運営者(管理者)は永年の経験からさまざまなノウハウを有しており、それらを同業者の交流でも活かして頂きたい。例えば、自社敷地内に野外ステージをつくり夏祭り(歌謡ショー)を開催したり、花火の打ち上げ(花火師の免許あり)など行っている。</p>
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は「異體同心」の理念に沿って、模擬家族を構成すべく、利用者と共に支えあう関係を目指している。職員が利用者から教えてもらうことも多い。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p><b>1. 一人ひとりの把握</b></p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>開所以来満2年を経過し、利用者一人ひとりの思いや暮らしの希望を把握しているように感じられるが、まだまだ未知の部分もあると思われる。</p>		<p>入所時のアセスメントは出来ているが、今後は認知症介護研究・研修東京センター方式の一部を取り入れて、個人別アセスメントシートの作成に取り組んでみては如何でしょうか。必ずや新しい発見がもたらされと思います。</p>
<p><b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b></p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者ごとに担当職員が決められているが、最終的には職員全員の意見を反映して作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行われているが、現状に即した短期の見直しが大切である。</p>		<p>平均年齢が高いホームであるので、日常の観察を密にし、計画の見直しには特に力を入れていただきたい。高齢者の身体的変化は急変するので日常的観察が大切であり、現状に即した短期の見直しが望まれます。</p>
<p><b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b></p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)</p>			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族が希望する場合は、多少遠くとも、かかりつけ医と事業所の関係を築き、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期のあり方については、本人や家族との間に明文化された書類での取り決めは行っていない。</p>		<p>平均年齢の高いホームでもあり、終末期のあり方については、本人・家族・かかりつけ医との話し合いと、相互確認の書類が必要である。グループホーム連絡協議会に相談し、同業者の事例などを参考にして、終末期に対するホームの方針を作成していただきたい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの尊厳を尊重し、言葉かけや日常の対応には温かい支援が見られた。</p>		<p>個人情報の保護については、職員はもとより研修生についても文書での確約を取ること等を検討いただきたい。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>買い物や散歩など、一人ひとりの体調に合わせて対応しており、個別の役割もおおむね決まっている。昼食後一人で別棟の友だちを訪問する男性利用者の姿が見受けられた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓の配置にもよるが、利用者と職員と一緒に食事をする体制になっていない。利用者は全員無口で穏やかな食事風景ではあるが、食事を楽しむ雰囲気に欠けるような気がします。		食卓の配置を変えると入居者と職員と一緒に食事を取ることが出来る体制になるので検討してほしい。また、職員のローテーションに合わせるのではなく、入所者のペースに合わせてゆっくり、ゆったり、楽しい食事の時間を作っていくことが望まれます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴の日は設定しているが、個人の要望に応じて入浴を楽しめるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、役割や楽しみごとの支援を行なっている。		認知症介護研究・研修東京センター方式(アセスメントシート)を導入することによって、利用者個々人の生活歴や文化を深く理解することが出来るので、更に新しい発見があると思われれます。役割や楽しみごとに新しい風を呼び込んでいただきたい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	一人ひとりの健康状態に適した外出支援(買い物・近隣の散歩)を行なっている。ホームの周辺は田園風景が美しく安心安全な散策が楽しめる。		自然環境は満喫できるので、買い物などの機会を増やし、社会との関わりも多くしていただきたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各部屋には鍵はない、玄関も24時間開放状態である。		鍵をかけないケアは大切だが、玄関の24時間開放は若干問題がある。万一に備えて玄関のセンサーチャイムの設置や夜間施錠についてはホームの立地環境も踏まえて対策を考えていただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自営消防隊を編成し、基本訓練は月2回(うち1回は夜間を想定)利用者を含めた総合避難訓練は年1回以上行なっている。		川の畔に建つ施設なので、水害や地震などの災害を想定したマニュアルを完備していただきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立が基本となっているので、一人ひとりに合った食事の量、栄養のバランス、がとれている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋建てのホーム施設は、快適な空調設備と採光の工夫がなされており、不快な音や光は感じられない。調度品も共用空間に溶け込んでおり、快適な空間が提供されている。共用空間のスペースが少なく感じられた。		共用空間を食堂として使用するだけでなく、畳の間も含めて、利用者同士がゆっくりくつろげる、憩いの場、として利用できるよう工夫していただきたい。
30	83	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室に木造りのベランダが設置されており、個室トイレの配置も安心・安全である。馴染みの調度品も配備され居心地の良い居室となっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症高齢者グループホーム 田園

記入担当者名 唯野 真己

#### 評価結果に対する事業所の意見

特に無し

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。